

令和5年度 嬉野市教育委員会 教育基本目標評価シート

嬉野市民ワクワクデザイン令和5年(社会教育)

具体的活動	教育委員会における自己評価				
	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
(1)図書館サービス推進事業	A	<ul style="list-style-type: none"> 県主催の研修等を活用し職員の研鑽を深め、窓口や電話での接遇やレファレンスに係るサービスの質の向上に努める。 図書館行事や図書館利用、ホームページの利用者サービスについて、ホームページ・「図書館だより」等を活用した迅速な情報発信の促進に努める。 配本や巡回をとおして、学校や幼稚園・保育園等の他団体、遠隔地区の利用者等との連携をとりながら、本に親しむ読書環境づくりの推進に努める。 市民サービスの向上の観点から、各種行事や事業を実施する。またボランティア団体等、他団体や地域との連携を強化し、市民参加による図書館運営を目指す。 嬉野市読書活動推進月間の取り組みについての広報を推進し、「イベント開催や作品募集」等をおとして読書活動推進月間の周知と充実を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員等の研修機会を確保し、多様な研修を受講し復命することで、窓口対応等の接遇向上、レファレンスの質の向上に活かすことができた。 ・HP、図書館だより、防災無線等を活用し、情報提供を迅速に行った。スマートフォン等での利用者カード表示機能を追加し、利便性向上に寄与できた。 ・配本や巡回を通して、幼稚園・保育園や学校等や各団体、遠隔地区の利用者等への読書環境づくりの提供に貢献できた。 ・新型コロナウイルス感染防止対策に努めながら、予定していた各種おはなし会等の行事を実施することができた。 ・読書活動推進月間の行事や作品募集等の取り組みを司書を中心に行い、読書活動推進月間の周知にも繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規職員が多く優先して研修に参加させたため、他の職員の研修機会が減少した。 ・ホームページや図書館だよりでの情報提供に努めたが、行事等への参加者数は減少している。 ・年少者から高齢者まで巡回図書等で読書環境の提供に努めているが、配本冊数の増加等要望もあり職員の業務量が増えている。 ・夏休みの繁忙期から読書活動推進月間の行事等の取り組みを企画準備しているが、職員の休暇取得促進時期と重なり、職員への負担が大きくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修機会のバランスを取りながら、勤務日を調整し研修機会を確保したい。 ・ホームページや図書館だよりで情報提供しているが、今後はSNSも活用しながら広報していきたい。 ・行事のニーズや学校行事の日程等把握しながら、利用者の参加しやすい行事の設定に努めたい。 ・読書活動推進月間の取り組みを年度当初から企画準備しながら、今後定着していく行事や新規の企画等精査していきたい。
(2)文化財の保存・活用事業	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国天然記念物「嬉野の大チャノキ」について、令和2年度からの取り組みにより、改善された点(葉の数や新芽の伸長量の増加)もあるが、萎黄病の発症は依然として確認されるため、今後も継続して事業に取り組み、樹勢回復に繋げる。 ・埋蔵文化財と開発行為の調整について事業者との連携を密にし、埋蔵文化財の保存・保護に努める。 ・伝統的建造物群保存地区における今年度予定の家屋の保存修理について適切に業務を遂行し、文化的景観の保全と生活環境の向上及び塩田津の観光活用に繋げる。 ・千堂遺跡及びその周辺遺跡の発掘調査の成果について、発掘速報展を企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の調査診断及び令和3年度からの再生事業の成果を基に継続して取り組んだ。専門部会や文化庁の調査官からの現地指導・助言を受け、新たにモニタリング調査も行った。 ・検索システムを活用しながら、迅速かつ正確に埋蔵文化財包蔵地の確認ができ、民間事業者への指導も円滑に行うことができた。 ・家屋修理1件について、計画的な事業の遂行に努めた。(保存修理は2月末に完了予定。) ・速報展について、今年度中の企画を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題として(1)表土の排水不十分な箇所と萎黄病が目視可能な箇所との重複(2)土壌の硬化(3)樹冠の乱成長による陽光・通風の不足などがあげられる。 ・埋蔵文化財包蔵地について、一部の民間事業者の理解が不足している。 ・修理予定の保存物件2件のうち1件について、施主の都合により断念されることとなった。 ・企画展について、年度末でなく時期をもう少し早められるよう計画的に実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内関係者、地元、県茶業試験場、JA等との連携を強化し、土壌改良など樹勢回復に向けた中期的な取り組みを継続していく。 ・関係者と情報共有を図り、文化財保護や活用への理解が深まるよう努める。 ・伝建地区の保存活用についての理解を深めるために、毎年所有者から提出されるアンケートの内容などを掘り下げて、地区内の保存物件所有者への周知や理解の浸透を図る。 ・企画展について毎年計画的に開催し、生涯学習等に繋げられるよう努める。
(3)文化の振興と環境づくり推進事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等活動を行い、さまざまなジャンルの演目を身近に触れ体験することで市民の文化振興に対する理解を促し、子どもから大人まで市民の文化に対する高い意識の醸成を図る。 ・伝統芸能継承事業及び人づくり支援事業等の実施により地域における各世代間の交流を基に、嬉野ならではの伝統文化の継承を図る。 ・市内の文化芸術団体等にビデオカメラや編集機器を無償で貸し出し、動画サイトやSNS等、新たな形での発表しやすい環境を整え、文化芸術活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供向けの公演や寄席普及公演等を行い、老若男女の市民に質の高い芸術文化を体験してもらい、市民の文化に対する高い意識の醸成が図ることができた。 ・伝承芸能継承事業では、地域の子どもたちに地域の伝承芸能を披露及び体験してもらい地域における世代間交流ができた。また人づくり支援事業では地域に伝わる伝統芸能の継承を図るための各種支援を行った。 ・市内の文化芸術団体等に無償貸し付けの周知を行ったが、実績としては1件の利用にとどまった。しかしながら、20歳の集いでは当該機材を利用してコーチューブの生配信を行い機材の活用にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度の高い演者等を迎えての公演であっても、コロナ禍以降、集客が減少傾向にあるため、新たな視点での公演やイベントなどを企画していくとともに周知方法も改善する余地がある。 ・地域の伝承芸能は、後継者不足で継続が危ぶまれるものが発生してきている。 ・無償貸し付けの周知方法は直接、市内の文化芸術団体に郵送で周知するとともに市のHPでの周知を行っていたが、今後は更なる周知を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の公演等に加え、新たな視点によるイベントやより魅力的な公演等を企画するとともに、従来の周知方法(全戸配布、市のHP、各種SNSの活用)に加えてより効果的な方法を検討していく。 ・地域の伝承芸能については、演者の高齢化や地域の過疎化等による後継者不足などが様々な地域から課題として意見を寄せられている。現時点での解消策は見つからないが、これまで以上に伝承芸能存続のための支援を行っていきたい。
(4)次世代を担う青少年の育成事業	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域及び関係機関との連携を強化しながら、様々な体験・学習が出来る場としての諸育成事業を展開し、青少年の豊かな人間性を育む。また子ども同士の交流を深める。 ・放課後や休日に子ども達が安全・安心して過ごせる居場所を設け、地域や異世代との交流の場を提供し、青少年が心の豊かさ、生きる力を養える環境の整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は恒例となっている「地引網」の他に「九重登山体験」を行い、児童に実体験をさせること出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年よりコロナの制限が緩和されたことで、イベント事がやりやすい状態となったが、他団体のイベント事も復活したことによりイベント日がかぶり、市民より出席できないとの意見もあり、日程調整には気をつけるべきと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に対象となる小中学校のスケジュール等は日程を確認し、市民が参加しやすいよう考慮する。
(5)生涯学習のまちづくり推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習による生きがいや健康づくり、地域づくりに寄与するため学習の機会を提供し、誰もが参加できる生涯学習へのきっかけづくりや継続的な学習活動を推進する。 ・最低限のコロナ対策をしながらも学習機会を増やすため、テレビ放送を利用しながら研修等を行う。 ・市民の意見を聞き、多くの方が参加したくなるような新たな講座の内容を提供する。 ・公民館教室など実施内容を市報などで広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かがやき大学」に関しては、コロナ明けとはいえ対象が高齢者ということから、テレビでの放送となっているため、個々での視聴となった。 ・今年より「シニアのためのスマホ教室」を嬉野、塩田公民館で実施したが、参加者からも好評を得て、次年度も行う予定。 ・講座内容については、老人会との打ち合わせで希望をお伺いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かがやき大学」がテレビ放映にしていることで、市民の生の反応がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かがやき大学」に関しては、令和6年度もテレビでの放送となっている。多くの視聴があるよう、毎月回覧板等で広報を図る。
(6)スポーツのまちづくり推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員や嬉野市体育協会、総合型うれしのほほんスポーツクラブと相互協力を行い、各種スポーツイベントや体力測定、クラブ活動を通じ、市民の体力向上と子どもから大人までスポーツに親しむことが出来る生涯スポーツの普及を図る。 ・働く世代や中高年者に向けて、一人でも空いた時間にできる運動を紹介するなど、運動不足といわれがちな年齢層に自身の健康づくりに対する意識を高めてもらうための環境を整備し、スポーツ実施率の向上を図る。 ・家族や親子で楽しめるレクリエーションスポーツイベントの開催やプロスポーツやトップアスリートの誘致により、「する」「みる」スポーツを通じて心身のリフレッシュを図る。 ・SAGA2024や、プロスポーツ等での地元ゆかりの選手の活躍を紹介するなど国スポの機運醸成やスポーツへの関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ明けで社会体育のイベントもフルに開催できる状況となり、久しぶりにスポーツ大会などに活気が戻った1年となっている。 ・今年もミズノとの連携事業で自重によるトレーニングをメインとしたLaLaLa Circuitというプログラムを実施し、日頃運動不足といわれがちな世代が取り組みやすい教室とすることができた。 ・監督が怒ってはいけないバレーボール大会を開催し、選手だけではなく指導者や保護者等にとっても青少年期のスポーツについてどう取り組むべきかを学ぶ機会を創ることができた。 ・嬉野市出身のJリーガーである林幸多郎選手による小学生サッカー教室を実施し、地元からのプロ選手による指導・激励をいただいてプロスポーツへの関心の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で、スポーツをやめてしまった人も多数いるようで、フルでイベントを開催しても参加者の数が減少している。 ・幅広い年齢層より中高年にターゲットを絞った展開を心掛けたが、なかなか関心を得ることができず参加者確保に苦慮した。 ・いろいろな世代にスポーツへの関心を持ってもらうためのPRが必要であるが、なかなか決め手がなく苦慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない参加者であっても、そこから口コミなどで参加が広がっていくよう、単なるイベント開催ではなくアフターケアまで含めたサービス展開としていく。 ・広報手段をさらに幅広くするために、SNSなどの活用を積極的に推進する。

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(4段階)
<p>○ 嬉野市ならではの歴史的、文化的、人的な資源を効果的に活用したり、嬉野市と繋がりのある企業や人材と連携・協働したりすることで、6つのプロジェクトを計画的に実施し、一定の成果を上げることができている。</p> <p>このような取組実績に加え、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客や出店の増加を踏まえた伝統的建造物群保存地区における建物の一般公開のあり方検討 ・地域における伝承芸能存続のための支援策の検討 ・「かがやき大学」の対面とテレビ放送によるハイブリッド実施の検討 【戸外での交流を希望するニーズへの対応及び独居高齢者の閉じこもり防止策の一つとして期待できる】 ・子どもたちが安全に、安心して過ごせる居場所づくり ・短時間勤務制度の導入、活用などによる図書館職員の負担軽減 <p>を図ることで、更なる成果や実績を上げることができるものと考える。</p>	<p>B</p>

指摘を受けての改善点
<p>【観光客や出店の増加を踏まえた伝統的建造物群保存地区における建物の一般公開のあり方検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定重要文化財である「西岡家住宅」については、現在は日曜・祝日および事前予約に応じて随時開放し、塩田津のガイド部等による来訪者への案内が行われている。また、旧下村家も町並み保存会事務局の開所日に合わせて公開している。その他に、所有者が自主的に公開されている建物もある。建物の一般公開については、所有者が居住し生活されている建物が多く、公開することが難しいものもある。今後は、レーザー測量等の最新技術を用いた公開方法も研究していきたいと考える。 【地域における伝承芸能存続のための支援策の検討】 ・市の無形民俗文化財である「畦川内の綾竹踊り」については、新型コロナウイルスの影響により活動を中止されていたが、令和6年度は10年による一度のおくんちの地区持ち回りの年ということで活動を再開し、披露をされる。そこで、「畦川内の綾竹踊り」を後世に伝えていくために、練習風景も含め、演者の踊りの所作や動作を3次元(3D)で記録保存する取り組みを行う。作成後は、ホームページ等での閲覧を検討していきたいと考えている。 ・一番懸念される継承者の掘り起こしのため、団体活動の内容等を市報などで広報することを検討。 【「かがやき大学」の対面とテレビ放送によるハイブリッド実施の検討】 ・かがやき大学に関しては、事業の対象が高齢者であることから令和6年度まではテレビ放送としているが、老人会等の意向を確認しつつ、対面方式に戻すことを検討する。 【子どもたちが安全に、安心して過ごせる居場所づくり】 ・現在、塩田公民館で「元氣っこクラブ」を実施。引き続き実施したい。 【短時間勤務制度の導入、活用などによる図書館職員の負担軽減】 ・今後、職員の研修機会の確保、休暇取得の促進をしながら、事業の円滑な運営等遂行するために、短時間勤務制度の導入について検討し予算化等提案したい。

評価4段階	A	達成(80%以上)
	B	ほぼ達成(51~79%)
	C	やや不十分(50~21%)
	D	不十分(20%以下)